

スポーツを通じた地域振興
に関する報告書

平成28年5月9日
松本市議会総務委員会

目 次

- | | | |
|---|-------------------|-----|
| 1 | はじめに | P 1 |
| 2 | 調査研究の経過 | P 1 |
| 3 | 調査研究の内容 | P 1 |
| 4 | まとめ | P 8 |

1 はじめに

サッカーチーム「松本山雅 FC」は、J2 参戦 3 年目の平成 27 年（2015 年）史上最速で J1 に昇格し、その結果松本市を含む中信地域全体に元気と活力を与え、多大な経済効果をもたらしました。このことにより、スポーツの振興が地域の一体感の醸成とともに地域の活性化に大きく貢献することを実感しました。

また、松本市では平成 27 年度に「文化スポーツ部」が新設され、スポーツ推進事業の所管が教育民生委員会から総務委員会へと変更になりました。

そこで、総務委員会の平成 27 年度の研究テーマを「スポーツを通じた地域振興」とし、調査研究をすることにしました。なお、今回の調査研究は松本山雅 FC を足掛かりとしてスポーツによる地域活性化について、他都市の状況及び本市の状況等について調査研究を実施しました。

2 調査研究の経過

- 平成 27 年 5 月 28 日 調査研究テーマを委員から募集
- 7 月 16 日 調査研究テーマを「スポーツによる地域振興」に決定
- 7 月 29 日 神奈川県平塚市を視察（湘南ベルマーレほか）
- 7 月 31 日 千葉県木更津市を視察（ちばアクアラインマラソン）
- 11 月 12 日 テーマ研究に関する協議
- 12 月 11 日 スポーツ推進課との意見交換会
- 平成 28 年 1 月 15 日 テーマ研究に関する協議
- 2 月 29 日 株式会社松本山雅との意見交換会
- 3 月 3 日 テーマ研究に関する協議

3 調査研究の内容

(1) 神奈川県平塚市の取組み概要（平成 27 年 7 月 29 日）

平塚市では、J リーグの先輩である「湘南ベルマーレ」のホームタウンとして行政がどのように関わっているのか視察してきました。概要は以下のとおりです。

ア 湘南ベルマーレに対する財政支援（企画政策課）

（ア）株式取得

- ・平塚市 470 株 2,350 万円
- ・（公財）平塚市まちづくり財団 1,280 株 6,400 万円

（イ）施設使用料等の減免

- ・平塚競技場使用料 4 分の 3 減免
- ・馬入サッカーグラウンド使用料 2 分の 1 減免

イ ホームタウンとしての取組み

（ア）平塚駅からスタジアムまで、キングベル（チームマスコット）誘導タイル、応援看板の設置

（イ）競技場等へのサポートベンダー（自動販売機）の設置（3 円/本を強化費に）

(ウ) ベルマーレ給食の実施

ウ ドリームパスポート事業（総合公園課）

(ア) 公式戦無料招待事業

平塚市総合公園内施設でのプロスポーツ公式戦を開催している「湘南ベルマーレ」「横浜 DeNA ベイスターズ」（イースタン）「横浜ビー・コルセアーズ」（b j リーグ）の試合に市内の小学生を無料招待するもの。

湘南ベルマーレ：約 20 試合

横浜 DeNA ベイスターズ：約 16 試合

横浜ビー・コルセアーズ：約 8 試合

(イ) プロスポーツ選手の小学校訪問事業

平塚市内 28 小学校を対象に、プロスポーツ選手が学校を訪問し、児童にスポーツの楽しさや将来の夢を持つことの素晴らしさを伝える授業を行うもの。

湘南ベルマーレ：8 校

横浜 DeNA ベイスターズ：5 校

横浜ビー・コルセアーズ：11 校

エ サッカー文化の振興によるまちづくり事業（スポーツ課）

(ア) 小学校巡回事業

市内 28 校全校に 1 回は無料で巡回指導を行い、2 回目を希望する学校には有料分の補助を行っている。H26 年実績 10 校 300 万円補助

(イ) 小中学生トレセン指導者派遣事業

小中学生を対象に強化指導を行っている。H26 年度実績 37 回 1,079 千円

(ウ) 体験イベント実施事業

幼児を対象にして、サッカーを通じた交流を実施。H26 年度実績 5 回 809 千円

オ 質疑

Q プロスポーツと行政のかかわり方について市民の反応は？

A ベルマーレが J リーグに加入した当時、サッカーだけに金をかけていいのかという声は一部にあったが、支援をやめろと言うような声はない。湘南ベルマーレは地域に密着している。ベルマーレへの財政支援をやりすぎるわけにはいかないので、市民に対するスポーツ指導をやって頂いている。平塚市は、1996 年 2 月に発表された「J リーグ百年構想～スポーツで、もっと、幸せな国へ～」というスローガンを掲げて、「緑の芝におおわれたスポーツ施設や広場をつくる」、「サッカーを核に様々なスポーツクラブを多角的に運営し、アスリートから生涯学習にいたるまであなたが今やりたいスポーツを楽しめる環境作りを目指す」、「スポーツを通して様々な世代の人たちが触れ合える場を提供する」ことを目的としている「J リーグ百年構想」を体現している「湘南ベルマーレ」を支援していく。

(2) 松本市スポーツ推進課との意見交換（平成 27 年 12 月 11 日）

「松本市におけるスポーツを通じた地域振興の取組みについて」をテーマに、スポ

ーツ推進課と意見交換会を行いました。このうち、松本市唯一のプロスポーツチームである松本山雅 FC と行政の関わりについては、以下のとおりです。

ア 松本山雅 FC 支援の取組みと経過

(ア) 出資

松本市 2000 万円 （塩尻市 1000 万円、安曇野市 500 万円、山形村 300 万円、大町市 500 万円、池田町（予定）300 万円）

(イ) 練習場

今井の松本市サッカー場：H24 年～H26 年優先使用

松本市かりがねサッカー場：H27 年から優先使用（総工費 13 億 8 千万円）

(ウ) 県への要望

アルウィンの改修を H26.11.21 に市長が要望。J1 クラブライセンスで求められる屋根、トイレ改修・増設、観客増加に備えた施設の拡張・機能向上

(エ) シャトルバスの助成

H24、H25 にシャトルバスの助成をしていたが、H26 からチケット代の値上げし、その財源でシャトルバスを無料運行することになり、現在は助成なし。

(オ) 臨時駐車場

新松本工業団地に 500 台分の臨時駐車場を H27 年 3 月から開設。アウェイサポーターに限らず利用されている。

(カ) パブリックビューイング【地方創生】

年 8 回開催し、569 万円の予算をかけ、スポーツ振興、中心市街地の活性化も目的としている。

(キ) 観光グルメマップ【地方創生】

市内観光用パンフレットを作成し、アウェイサポーター向けにプログラムに折り込んで配布

(ク) ホームタウンデー【地方創生】

J リーグホームゲームで実施。ペットボトルホルダーの配布。みはらし味の会、加工組合さくらの食べ物、検診の PR（健康づくり課、保険課）。抽選会商品に松茸、山辺ブドウ、FDA チケット、OMF グッズ等を用意した。

(ケ) 松本山雅フェスティバル

少年サッカー大会。県外から強豪チームを呼んで実施していたが、規模が大きくなり実行委員会主催となっている。

(コ) 地域交流活動促進

松本山雅 FC と地域の交流ということで、健康体操教室などを行っている。1 月に小学校低学年向けのサッカー大会を予定している。

イ J リーグの理念に市がどのように関わっていくのか。

松本山雅 FC は J リーグの活動方針、松本市はスポーツ推進計画とそれぞれの拠り所による活動をしている。協力し合い、利用し合って相乗効果を図っている。

(ア) 地域密着

J リーグの理念は「サッカーの強化・育成・普及」「スポーツ文化の振興と国民の健康」「国際交流への貢献」の3つの理念の実現方法として掲げられた活動方針の中に「地域密着」が入っている。

(イ) 松本市スポーツ推進計画

スポーツ基本法のある精神があり、スポーツを通じての幸福で豊かな生活を営む事は全ての人々の権利であると謳っている。スポーツ推進計画では、多面にわたる役割を担うスポーツの力を最大限活用する中で「するスポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」と様々な関わり方で市民皆がスポーツをする事を目指している。スポーツによる地域活性化の推進という事で、地域に根ざしたスポーツの支援のなかで、プロスポーツチームを地域活性化のあしがかりとして継続的かつ多角的に支援する事として、スポーツ推進計画に謳っている。

(ウ) 他課による松本山雅 FC との協働事業

① 元気育成・健康増進プログラム（福祉計画課）

福祉ひろばで松本山雅 FC の健康教室を年 12 回実施している。

② 保育園・幼稚園巡回サッカー教室

松本山雅 FC の地域活動として行われているが保育課が協力。H26 実績は、25 か所で 44 回実施。

③ 観光大使に任命（観光温泉課）

④ 健康産業推進協議会に会員として参加（健康産業・企業立地課）

(エ) 松本山雅 FC の経済波及効果等

- ・民間のシンクタンクの試算では、経済波及効果は約 54 億円。特に宿泊、飲食関係に好影響
- ・地域コミュニティの再生：地域単位で自発的応援団ができ、地域の一体感醸成に役立っている。
- ・生きがいづくり・健康づくり：老若男女を問わず、応援に出かける事で生活に張りが出た。三世代家族のコミュニケーションがはかれるようになった。チャントを歌ったり、飛び跳ねて応援することでストレス発散し健康増進に繋がった。
- ・山雅サポーターがアウェイに出かける事により、松本の PR になり、アウェイサポーターが来松し観光に繋がる。

(オ) 他の J リーグチーム

- ・都市の規模にもよるが、仙台市、鹿島市は 1 億円の出資をしている。平均 3800 万円の出資であるが、1 億円都市を除けば 1400 万円で、松本市は平均的といえる。地方都市の J チームが運営していくには、自治体の支援が必要であり、地域に密着しスポンサーの確保、育成システムをしっかりとし、選手を高額で移籍させていけば、経営が安定する。
- ・鳥栖市、甲府市、平塚市、清水市等が参考になる。

(3) 松本マラソン大会の開催について（平成 28 年 1 月 15 日）

文化スポーツ部から新たに開催する松本マラソンの骨子について報告されました。

なお、フルマラソン大会の創設については、平成 24 年 12 月議会一般質問において議員から提言があり市当局が検討していたものです。その概要は次の通りです。

- ア 大会名称 第 1 回松本マラソン
- イ 主催 松本マラソン実行委員会
- ウ 共催 松本市、信濃毎日新聞社他
- エ 開催日時 平成 29 年 10 月 1 日（日） 午前 8 時 30 分スタート
毎年 10 月第 1 日曜日開催とする。
- オ 開催種目 (ア) マラソン (42.195 km、日本陸連公認コース)
(イ) ファミリーラン (2~3 km、信州スカイパーク陸上競技場及びその周辺を利用)
- カ コース (ア) スタート地点 市総合体育館前信号機
(イ) ゴール地点 信州スカイパーク陸上競技場
松本の景観を生かしつつ、道路・交通事情に配慮した片道コース
- ク 制限時間 5 時間 30 分 (8 カ所に関門設置、午後 2 次競技終了)
- ケ 参加定員 (ア) マラソン 10,000 人
(イ) ファミリーラン 500 人程度
- コ 参加料 (ア) マラソン 11,000 円 (税込)
(イ) ファミリーラン 3,300 円 (税込)
- サ 第 1 回大会運営費 約 2 億 4,300 万円 (概算)

(4) プロスポーツを通じた地域振興に関する意見交換会（平成 28 年 2 月 29 日）

株式会社松本山雅の代表取締役会長大月弘士氏、取締役副社長加藤善之氏をお招きし、①松本山雅 FC が行政との連携として考えていること、②J1 を経験しての感想、思いについて意見交換を行いました。概要は下記のとおりです。

ア 加藤副社長の話

- ・松本に来て今年で 8 シーズン目であるが、J2 に上がって 5 シーズン目になる。チームの成長と共に地域も盛り上がり、地域の方々の支援、応援が膨らみチームを運営出来ることに感謝している。
- ・J リーグがクラブライセンス制度を定めてあり、各 J クラブチームの格付けがされる中、かりがねサッカー場を整備していただいたことにより練習場が確保でき、クラブハウスも隣接地に完成でき感謝している。
- ・J リーグ 100 年構想に沿った地域のスポーツクラブを作っていくうえで、我々は、「見る人」をどうつくっていくかに着目し、クラブ運営の基本方針にしてきた。
- ・特定の企業や自治体に頼らない運営をし、単年度赤字を出さないということで、これまで 10 期赤字を出さず、身の丈にあった運営を基本にやってきた。
- ・課題は、収入の確保。クラブの収入は、広告収入、入場料収入、J リーグからの分

配金、その他事業収入と主だった収入は4つ。費用は、人件費と物件費が半々。企業としては入場料収入を増やし、人件費に回していく。チームが勝つことによって活性化が進み、市民の皆さんにも喜んで頂ける。そのためには、①アカデミーを含め活動拠点の整備、②スタジアムのホスピタリティを強化する中での環境整備、③育成環境の整備が必要

- ・市民参加型のクラブ運営とライバルチームであるAC長野パルセイロのお蔭で、サッカーを知らなかった人にも関心を持って頂いた。仮に同じJ1で戦うことになれば、3万人収容のスタジアムが必要。ACL（アジア・チャンピオン・リーグ）に参加するにも、今のアルウィンでは課題が多い。
- ・2016年は16億円の収入見込みで予算を組んでいるが、トップチームを勝たせながら、育成型クラブに転化させることが、ビッククラブと戦う唯一の方法である。
- ・松本市も6つの健康を地域づくりの基本にしているが、「する人」「見る人」「支える人」の活動も、人の健康、生活の健康、地域の健康、教育・文化の健康、環境の健康、経済の健康につながる。その中で、松本山雅FCを活用頂く。介護予防プログラムに協力させて頂いているが、もっと深く関わるようにしたい。チームを強くすることによって引き続き市民の皆さんと良い関係を築いていきたい。

イ 大月会長の話

- ・昨年クラブ創設50周年ということで、ドリームビジョンを発表した。
 - ①「人づくりに貢献する育成ビジョン」
 - ②「まちづくりに貢献するホームタウンビジョン」
 - ③「未来づくりに貢献するスタジアムビジョン」の3つ。
- ①に関しては、育成スタッフにかなりの人件費をかけた。岸野監督には、松本大学の監督も担って頂く。東御市の社会人チームに投資し、小、中、高生にもJリーグ経験のコーチを当てた。②に関しては、ホームタウン協議会を開催し、自分達のまちで活かせることをどんどんやっていく。福祉ひろば12か所を選手、スタッフ、外部講師を招いて松本山雅FC 元気育成健康増進プログラムを行っているが、そういったことで、もっとまちづくりに関わっていきたい。③に関しては、説明不足でご批判を頂いているが、松本山雅FCが成長することで同時に地域が発展することを考えようということで、松本商工会議所、青年会議所、商工会議所青年部、地元商店街連盟、飲食店組合、女性団体、そしてサポーター等が40名ほど集まって「山雅ドリームプロジェクト」として、勉強会を開催している。
- ・観客席を増設し23,000人程度収容できるようにすれば、アルウィンも更に素晴らしいスタジアムになるが、それに応じたコンコースの拡大などの問題もある。
- ・日本の公共事業自体の見直しが必要な時期に来ている。週に1度しか利用しない物に投資する時代ではない。会議室や学校や老人施設、市役所等を別々に作ることも、多機能複合施設にしていくことが今後必要ではないかと考える。
- ・松本山雅FCはJリーグの中でも、市民クラブとして素晴らしいと評価して頂いた。スポーツ庁に呼ばれ、「スポーツを生かしたまちづくり」の冊子をつくるのに、12

スポーツのひとつに選ばれた。

ウ 質疑応答

Q 育成組織を県内のホームタウン中心にどのように展開されるのか。

A ナイター設備が必要。子ども達がひとりで通える距離。地域のスポーツ少年団との関係。フットサルコート等自治体に作って頂き指定管理者になれないか。中南信に広げて行きたい。

Q ベルディについて、行政との関係について。

A 川渕チェアマンと渡辺社長との考えの違いにより、ベルディは低迷した。読売グループがスポンサーでなくなった。山雅は地域に支えられたチームなので、自治体とも関係を強化し、市民クラブの良さを持続発展させたい。

A サッカーのみに投資できないとの公共性も理解できる。総合型スポーツクラブを目指しているが、まず松本山雅 FC が持っているフィジカルトレーニング的なことを他のスポーツでも指導し、スタジアムに集まってもらうのも一つの考え。投資は選択と集中が必要で、その投資した部分で得た税金で市民へのサービスを均等化すべきである。

Q プロスポーツで勝つということは。

A 管理者の責任であり、選手は活躍すれば報酬があがる。強い気持ちを持って戦いたい。

Q J1 と J2 の違い等の感想があるか。

A とんとん拍子で上がったが、課題も見えた一方で、まだまだポテンシャルがあると感じた。山雅サポーターが全国に応援に行くし、パブリックビューイングで地域コミュニティや絆が深まった。J2 の 3 年間は大変だったが J1 に上がって地域にエネルギーを与えたと思う。

A 山雅サポーターは J1 でも J2 でもフライブルク市と同じように極端に減ることはないと思う。松本に生まれ育った人間として、是非、松本で新たなスタジアムができることを願っているし、皆さんと議論していきたい。

エ 松本山雅 FC の効果

松本山雅 FC の歴史は、1965 年（昭和 40 年）松本駅前の喫茶店「山雅」の常連客がサッカーチーム「山雅クラブ」を結成したことに始まります。以来、北信越リーグ、JFL, J2, J1 へと昇格の階段を順次上がってきましたが、ここに至る 50 年の歴史はむしろ苦難の連続でした。

一方、市民のサッカーに対する関心は、「山雅」発足当時、一部のサッカー愛好者の範囲内だけの話題に留まっていた状態でした。しかし、北信越リーグで初優勝したこと、アルウィンが完成したこと、「山雅クラブ」から「松本山雅 FC」へ改称したこと、天皇杯で J1 の浦和レッズを破ったこと、松田直樹選手が加入したものの急逝したこと、反町監督が就任したことなどが大きくマスコミで報道されるたびに、勝利に向かって一途に努力する山雅のスタイルが市民の共感を呼び、熱心なサポーターが劇的に増加していきました。

従来、松本市民がこぞって応援するスポーツといえば、高校野球がありました。かつて上田選手を擁して甲子園で活躍した松商学園高校を応援したように、松本市民は地元で応援できるスポーツチームを潜在的に渴望していたと考えられます。だからこそ松本山雅 FC の存在は、市民が年間を通して話題にできて、応援に参加できる恰好なスポーツとして市民の共感を得たと言えます。世代間を通じて市民が交流し楽しめるスポーツメニューが増大したのです。

4 まとめ

スポーツ振興について、我々はどのような効果を期待しているのでしょうか。かつては体力の向上を通じた健康増進、仲間との親睦の深化など内在的效果が多かったように思います。しかし近年、地域社会の活性化・振興、一体感の醸成、都市の社会的地位の向上など、多面にわたる大きな効果が明確となってきました。

スポーツの振興は、市民の健康づくり、生きがいに役立っただけでなく、都市の個性を高め、地域の活性化に大きく貢献することを、この度の総務委員会のテーマ研究によって確認することができました。なお、スポーツ振興を推進するにあたっては、身の丈に見合った、そして行政の公共性をわきまえた支援を研究して取り組むことが重要です。

おりしも総務委員会が「スポーツを通じた地域活性化」について調査研究をしているさなか、市当局から新たに「松本マラソン大会」を開催するという報告がなされました。健康意識の高まりを受けて多くの市民ランナーの来松も期待でき、スポーツを通じた地域活性化という観点からも、時宜を得た企画であると期待できます。

このようなスポーツの果たす役割の重要性を踏まえ、スポーツを通じて市民が生涯にわたり、心身共に健康で文化的な生活を営む社会を創出するために、スポーツを「する、見る、支える」と様々な形で市民がスポーツに関われる松本市を目指していきたいと考えます。